

## 西国街道（旧山陽道）について

俗に旧山陽道と呼ばれる西国街道は江戸幕府の幕藩体制の確立によって整備された公道の1つです。大阪から下関に至り、更に小倉に至る長い道です。芸藩では道幅2間半と定められ、松並木が植えられ、36丁ごとに一里塚松が道の両側に置かれ、廿日市、玖波は宿驛となり、それぞれ本陣が置かれていました。この道は広島より西へ、己斐・古江・草津・井ノ口を経て、現在の五日市町・廿日市町・大野町・大竹市を通り、小瀬川を渡って、現在の岩国市の関戸へぬけています。現在の国道から比較しますと、海岸をさけて山側を通っているのがわかります。

これに対して、山陽道と呼ばれる古代の道があります。これは都と太宰府を結ぶ、当時の日本では唯一の大路でした。この山陽道と西国街道は大野町・大竹市では大略一致すると考えられていますが、五日市町では山陽道は異り、石内・八幡から極楽寺山麓の中腹を横切っていたようです。従って、廿日市町でも1部、違った所を通っていたようです。今後の研究が必要です。

西国街道は江戸時代の生活と文化を支えた重要な道でしたが、明治に入ると、海岸近くの道はそのままでしたが、山側のところは山坂が多く不便でしたから、海岸側への改修が行われました。そのため、国道とならず、県道へ、また、村落の生活道に変るところも出て来ました。そして、今では消えてしまいそうなのところもあるのです。

西国街道には400年近い歴史がありますし、場所によっては古代山陽道にさかのぼり、1300年に近い歴史があるので、第1級の文化財と言えます。いま、その保存が強く望まれるわけです。

### 五日市町関係（山側）

- 観音神社 観音地区の総氏神
- △ 池田城跡 初代の城主を池田教正といい、楠木正行の嫡子にあたるという。摺津の池田よりくるという。後、大和国須弥城主高木信光の子、信安がこの城に移る。
- ⑦ 五葉院跡 光禪寺は中世末までこの地にあった。
- ③ 五輪石塔 楠正親夫人のものという。
- △ 八幡川流路変更地点 この地点から古川へ流れていたのを切り変えて、現在の流路につけかえた。
- △ 茶臼山城跡 池田城の控城という。
- △ 向山城跡 池田城の控城という。
- ⑦ ニノ宮 天湯津彦命を祭る。
- ④ 「都志見往来諸勝因」の土橋 現在の八幡橋より約120米上流
- △ 八幡川開削地 山を開削して、流路をつけかえる。
- △ 池田屋敷跡 池田氏館跡
- ⑪ 一の宮・高山神社跡 安芸国の祖神、安芸津彦命を祭る。
- △ 旧八幡川筋跡 古川といい、旧八幡川の川筋、当時よく氾濫したという。
- ⑬ 八幡神社 もと近隣15か村の総氏神。
- △ 月見が城跡 池田城の控城で、福島時代、高木信行は攻められて、この花山月見屋敷で自刃したという。
- ⑮ 植木小右衛門墓 光禪寺墓地、浅野藩御船奉行
- ⑮ 光禪寺 浄土真宗、安芸12坊の1坊、第二次長州の役のとき、井伊掃部頭の本陣となる。宗旨改めの際のキリシタン信徒の墓がある。
- ⑬ 光禪寺誓いの松 1678年、石井兄弟が仇討をしたとき、記念として植えたものという。
- ▽ 弥生式石棺のあった所 現在、この石棺は中央公民館前庭に保存されている。
- ▽ 坪井古墳跡 横穴式石室、須恵器などが発見された。
- ⑳ 五つ神社 菅原道真左遷のとき、船を寄せたという。
- △ 五日市（光明寺）城跡 厳島神社神領争い、神職争いの戦に役割を果たす。神職争いのときは、東方となり、六戸弥七郎元統の城となる。
- ⑬ 坪井将監力石 大力で名高かった将監が日頃力だめに使ったという。
- △ 坪井将監家敷 物見やぐらの跡もあったという。
- ▽ 鎌倉瓦散布地 円明寺関係のものか。
- ⑳ 円明寺、円明寺縄文遺跡、任助法親王印塔 真言宗、昔は七堂伽藍があったという。縄文早期の遺跡で、石やり、石鏃、押型文土器が出土している。任助法親王供養の宝篋印塔、法親王の詳細については大野町関係に記載。
- ⑳ 伝源範頼墓 五輪石塔
- ▽ 貝塚 時代不明
- ▽ 三宅古墳跡 金環、銀環、切子玉、小玉、鉄刀、馬具、須恵器などが出る。屯倉と関係あるものか。
- △ 田所屋敷跡 安芸国第1の旧家で、後に府中に出、安芸国田所職となる。一族は厳島の神職にもなっている。
- △ 南蛮樋 ろくろで上げ下げした南蛮式の樋門があった。
- △ 導流堤 潮が逆流しないようにした堤
- △ 導流堤の松並木 明治38年頃、植えられた。
- ▽ 旧石器発見地 広工大学生寮の裏地

### 廿日市町関係（山側）

- △ 岩戸尾城跡 桜尾城の支城の1つ、陶晴賢が1年余滞陣したことがある。
- ⑳ 一里塚松跡 広島原標より三里塚
- ⑳ 八幡神社 元は廿日市東町及び佐方村の氏神、厳島神主家藤原親実の勧進という。津和野藩士堀田仁助（幕府天文方）や、船屋敷・田原小左衛門寄進の石燈籠などがある。
- △ 銀尾城跡 毛利の麾下、遠藤美作所居という。
- ⑳ 洞雲寺 曹洞宗 厳島神主家藤原教親の菩提寺とし

- て、長享元年（1487）建立、境内に、藤原興藤、毛利元清夫妻、桂元澄・陶晴賢などの古墓、杉山赤富士の句碑などがある。
- ⑳ 出合の清水 古街道の道筋か、古歌に、「出合の清水 鷺の森 阿弥陀が峯に 厳島」とあり、当国の名所とする。
- △ 篠尾城跡 桜尾支城の1つ
- △ 明治天皇御休憩所跡
- ⑳ 天満神社 厳島神主家親実、鎌倉餅柄天神を勧請するという。後に廿日市の氏神となる。
- ⑳ 正覚院 真言宗 明応2年銘、極楽寺鰐口（県重文）あり、鐘は山田次右衛門貞運の作（町重文）、時太鼓は有名。
- ⑳ 蓮教寺 浄土真宗 寛政の頃、名僧大龍あり、鐘は山田次右衛門貞榮の作（町重文）、寺内の蘇鉄は津和野藩船屋敷のものという。
- ⑳ 常国寺 日蓮宗 厳島神社鋳工及び廿日市本陣・庄屋山田家の墓地あり。
- ④ 札場跡 廿日市の御制札場があった所。
- ④ 胡蝶園 近郷俳界の中心
- ④ 馬ヤガ迫 古代山陽道の種篋驛に因む地名か。
- △ 西の火番所跡
- △ 福佐売神社 通志に古社として記される
- △ 谷宗尾城跡 桜尾支城の一つ、七尾堡壘の一城 小幡上総所守という。
- △ 宗高尾城跡 桜尾支城の一つ、七尾堡壘の一城 丘陵を南北の掘割で切り、内に2段の平坦地を見る。糸賀平左衛門所守という。
- ⑮ 北山観音堂 北山の住民が祭るといふ。
- ⑳ 一里塚松跡 広島原標より四里塚
- ⑳ 茶店跡 専念寺庫裡のところは茶店跡という。庫裡は廿日市の明治天皇御休憩所建物を移したものだ。
- ⑬ 古代糸里基準道 宮内小学校校門前の道が古代糸里製の基準になる。針田から河本にかけて、この中筋を中心にして、東西12町の糸里があったものと推定される。
- ⑳ 天王社 天正年中、広田山麓よりここに移る。宮内上組の氏神、もと、牛頭天王を祭る故に天王社という。
- 光代寺 11面観音（町重文）あり
- ⑳ 津和野街道分れ跡
- ⑬ 安芸のいさり水跡 通志に記載 江戸時代、名水として讃えられる。

### 大野町関係（山側）

- ⑳ 四郎峠 伝説「大野五郎」の5人兄弟のうち、この付近を開拓したという四郎の名を冠した町境の峠
- ⑬ 今川貞世歌碑 貞世が九州探題として下る途中、応安4年（1371）、当地を通過したとき詠んだ歌
- ⑳ 椎の宮 大歳社だが、昔、椎の木が茂っていたので、この名で親しまれる。伝説「大野五郎」の四郎を祭る。
- ▽ 裏ヶ嶽遺跡 弥生式土器出土
- ⑳ 三槍社 大頭神社の末社
- ⑳ 新宮神社 伝説「大野五郎」の次郎を祭る。
- ⑳ 高庭駅家・濃鬱跡跡 古代山陽道の駅家跡、濃鬱は嗜濃の誤りとされ、「オオフ」と読まれる。
- ⑬ 高畑ため池 芸藩通志に載っている大野最古のかんがい用池
- △ 陣場跡 第二次長州戦役のときの幕軍の検問所の跡
- ⑳ 間宿跡 大島氏の家で、廿日市と玖波の中間にあたり、間宿と呼び、大名の昼食、または休憩などにあてられた。
- ⑳ 樹かけ神社 義民大島庄左衛門父子を祭る。
- ⑳ 西教寺 浄土真宗、第二次長州戦役のとき、幕府軍が本陣を置く。
- ▽ 滝ノ下貝塚跡 不明
- △ 千人塚 第二次長州戦役の無名戦士の墓、付近は当時の激戦地
- ⑳ 大頭神社 厳島神社の摂社